

群 教 セ	G10 - 01
	平 29. 265 集
	道徳

自他のよさを認め合い、道徳的価値に対する 自分の思いや考えを深める児童の育成

——多様な考え方に触れる話し合い活動を通して——

特別研修員 加藤 敏子

I 研究テーマ設定の理由

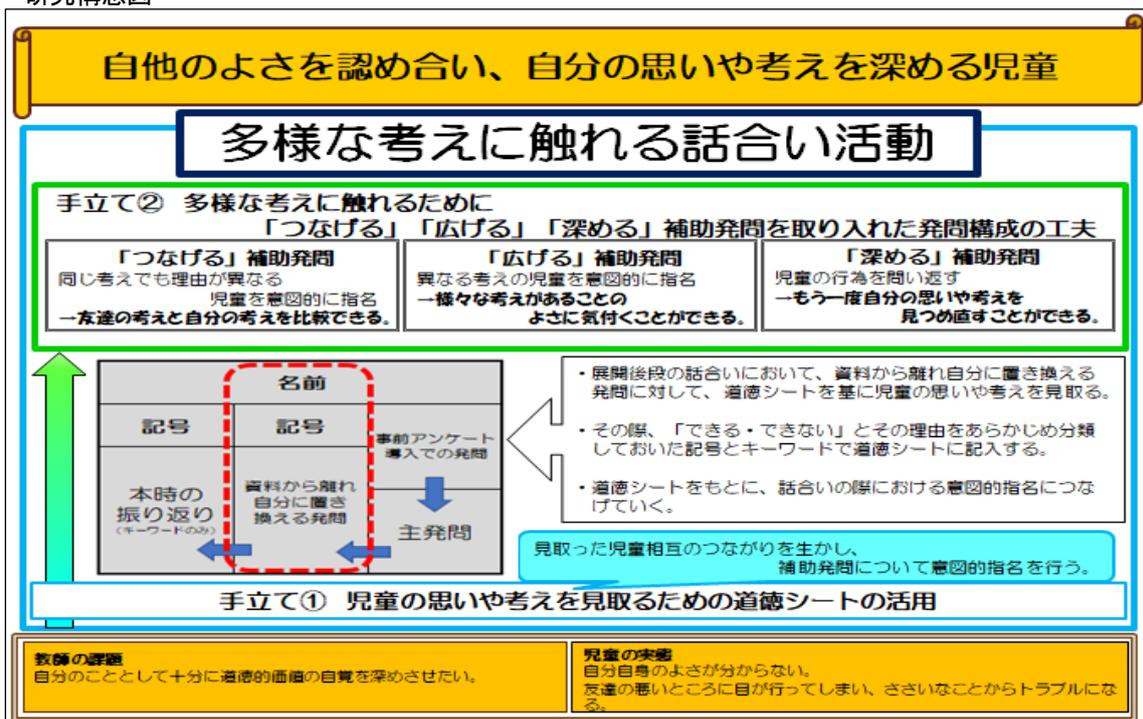
群馬県学校教育の指針では、「他者の多様な考えがあることよきや感じ方に触れ、自己を深く見つめる学習を工夫し、これからの生き方への思いや願いを深める」ということが求められている。

児童は道徳の時間の中で教材の登場人物の心情や行為等を通して道徳的価値を理解しているが、自分のこととして十分に道徳的価値の自覚を深めるところまで至っていない。また、本学級では、自分のよさが分からなかったり、友達の悪いところばかりに目がいきってしまう、ささいなことからトラブルになったりする児童が多い。このような課題から、児童が互いの思いや考えを聞きたくなるような話し合い活動を設定し、児童の思いや考えを深めていくことが必要であると考えた。児童は、道徳的価値に対する自分の考えを持ち、他者に伝える話し合い活動を行うことで、多様な考えがあることよきに触れることができる。その中で、自分の思いや考えを再確認したり、友達の考えのよきや新たな視点で見直したりすることで、互いのよさを認め合い、道徳的価値の自覚が深まり、自分のこととして受け止めることができると考えた。

そこで、発問に対する児童の思いや考えを見取る道徳シートを生かし、自分の考えと友達の考えの比較ができる「つなげる」補助発問や、様々な考えがあることよきに気付くことができる「広げる」補助発問、もう一度自分自身の思いや考えを見つめ直すことができる「深める」補助発問を取り入れながら、展開後段での話し合い活動を設定していく。話し合い活動を明確に位置付け、補助発問を工夫することで、友達と関わりながら様々な考えに触れることができ、自分の思いや考えを深められると考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



実践例

1 主題名 勇気ある行動 A—(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

資料名 「ドッジボール」 (出典 東京書籍)

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本主題は、新学習指導要領A—(1)における中学年の指導内容「正しいと判断したことは、自信を持って行うこと」をねらいとしている。「物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じる場所に従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚すること」に関する内容である。

中学年においては、正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じる場所に従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え、正しいと判断したことを自信を持って行い、正しくない判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に、正しくないことを人に勧められたときにきっぱりと断ったり、正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導していくことが必要であると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく元気な児童が多く、休み時間には男女問わず一緒に遊んでいる。毎週水曜日にはクラス全員でレクリエーションをすることがあり、鬼ごっこやドッジボールなどを行っている。また、帰りの会では、それぞれの係ごとに決めた工夫をクラス全体に伝えている。このことで、何に気を付ければ係の人が困らないかが分かり、一人一人が責任ある行動を取れるようになってきている。

しかし、最初はみんなで楽しく遊んでいても、「タッチしたのに逃げてしまった」「ボールが当たったのに外に出ない」など、トラブルになることがある。正しいことを相手に伝えられる児童もいるが、周りで見ても何も言うことができない児童もいるため、休み時間のトラブルについては児童同士での解決は難しい。児童一人一人が、いつも誰にでも正しいことを伝えることの大切さを理解し、更に良い人間関係を築き、より良い学級作りにつなげていきたい。

(3) 資料観

本資料は、「ドッジボールの試合中、一郎に当たったと思ったいく子は、当たっていないと言われる。明は当たったというが、周りの友達は一郎の味方をする。その日の反省会で、おとなしい登が正しい意見をはっきりと言い、みんなに反省を促す。」という話である。どのような場面でも正しいことを自信を持って行うためには、自分なりに善悪の判断をし行動に移さなければならない。本資料を用い、意見をはっきり言った登の心情に共感させることで、正しいことを行ったときの充実した気持ちを理解し、正しくないと考えられることをしている人を止められる行動につなげていきたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、資料を基に道徳的価値を考えた後、自分自身の経験を振り返り、友達との関わりについて話し合う際に、ワークシートに記述した児童の思いや考えを見取った。そして、全体での話し合い活動では、「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を取り入れながら、児童がより多くの考えに触れられるようにした。

手立て① 児童の思いや考えを見取るための道徳シートの活用

展開後段の発問に対して、児童がどのような思いや考えを持っているのかを見取り、分類しておいた記号とキーワードを道徳シートに記入する。

手立て② 多様な考えに触れるために「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を取り入れた発問構成の工夫

話し合い活動では、補助発問を取り入れ、同じ考えでも理由が異なる児童の意見をつなげたり、異なる考えの児童に意見を聞き、考えを広げたり、児童の行為によって誰がどのような気持ちになるか考え、深めたりする。

4 授業の実際

導入では、「間違っていることに対して、正しいことを言えた経験があるか」を想起させ、価値の方向付けを行った。展開前段では、登場人物をイラストや吹き出しを用いながら登場人物の関係をまとめた後、「本当のことが言えた登は、どんな気持ちになったのだろう」という主発問を投げ掛け、正しいことをはっきり言った登の気持ちについて考えた。

手立て① 児童の思いや考えを見取るための道徳シートの活用

展開後段では、「正しいことを自信を持って行うことはできるか」という発問に対して、ワークシートの「できる・できない」に丸を付け、理由と併せて述した。個人で考える時間を十分に取、机間指導をしながら全員の思いや考えを見取っていった（次ページ図2）。14人の児童が「できる」に付けた。理由としては、「自分の気持ちがモヤモヤする」「自信を持って言えば自分の気持ちがスッキリするし、周りの友達もいい気持ちになる」という意見が多く挙げられていた。また、10人の児童は「できるときもあればできないときもある」という考えを持ち、「同級生や年下には言えるけど、年上には言えない」「仲の良い友達になら言える」という理由を書いていた。2人の児童は「できない」に付けた。理由としては、「仲間はずれにされるかもしれない」とあり、友達との人間関係を考え、正しいことを自信を持って行うことができない、そうする勇気がないということが考えられた。道徳シートを基に、児童の思いや考えを見取ることができ、話し合い活動の意図的指名につなげていくことができた。

手立て② 多様な考えに触れるために「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を取り入れた発問構成の工夫

話し合い活動では、道徳シートを基に、「できる」「できるときもあればできないときもある」「できない」の順に意図的指名をしながら、児童の思いや考えを引き出し、自分の今までの行動や友達との関わりをじっくり考えられるように進めた。

そして、まず「できる」という考えでも理由が異なる児童を意図的に指名し、「Aさんの自分の気持ちがモヤモヤするという考えについてどう思いますか」という「つなげる」補助発問をすることで、児童からは「Aさんと同じ考えだけど、理由が少し違って、相手が反省しないから、正しいことは言ったほうがいいな」と友達の考えと自分の考えを比較しながら、自分の思いや考えを発言する児童もいた。他の児童からも「分かる」「なるほど」などのつぶやきが増えてきた。また、「できる」と異なる「できるときもあればできないときもある」という考えの児童を指名し、「Bさんは仕返しされそうと言っていたけど、Aさんの自分の気持ちがモヤモヤするという考えについてどう思いますか」という「広げる」補助発問をすることで、異なる意見の児童の立場で考え、「ぼくは仕返しされそうだから言えないけど、Aさんのような考えもあるな」と自分の思いや考えだけでなく、様々な考えがあることよさに気付くことができ、自分の思いや考えを広げていくことができた。さらに、児童の行為によって「正しいことを自信を持って行くと、誰がどのような気持ちになりますか」や、「できない」と考えた意見を取り上げ、全ての児童に対して「正しいことをするのは難しいよね。でも、それでいいのかな」という「深める」補助発問をすることで、「自分が正しいことをすると、気持ちがスッキリする」と、もう一度自分の思いや考えを見つめ直すことができ、自分の思いや考えを深めている児童がいた。

このように、「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を取り入れた話し合い活動を行うことで、様々な考えに触れ、互いのよさに気づき、自分の思いや考えを深めることができる児童が増えた。

「ドッジボール」															
⑩男			⑩男			⑩女			⑩男			⑩女			
こ	○		こ	○	どちらか	こ	○	ない	こ	○	どちらか	反	○	ある	
	止める	やっと 言えた		止める	よかった		落ちるが 怖かった			モヤモヤ	良かった		注意する	考え直して	
⑩男			⑩男			⑩男			⑩女						
こ	○	どちらか	こ	○	ある	反	○	ない	反	×	ある				
	モヤモヤ	よかった		むしゃくしゃ	すっきり		自信を 持って	すっきり		勇気出ない	仲間外れ	よかった			
⑥男			⑥男			⑥女			⑥女						
こ	○	ある	こ	○		こ	△		こ	△					
注意	相手がその まま	良かった モヤモヤ	① 「できる」の意見でも、理由が異なる 児童の考えをつなげていく。							言えなかった	当たったん だな				
④男			④女			④男			④女						
反・こ	△	どちらか	こ	△	どちらか	こ	○	どちらか	反	△	どちらか				
	仲のいい 友達なら	言って 良かった		注意する	よかった		スッパリする	よかった		人によって 言えない	よかった				
③女			③男			③女			③男						
こ	△	どちらか	こ	△	どちらか	こ	○	ある	こ	△	どちらか				
	言い返さ れそう	よかった		スッパリする	言えた!		楽しくない	言いたいと 思ってた		怒られるから	スッパリ				
②男			①女			②女			②男						
こ	○	/	こ	△	どちらか	反	△	どちらか	反	×	どちらか				
	注意	もう一度 考えて		年上×	よかった		人数少○	本当の事を 言わなくちゃ		仕返し されそう	スッパリ				
①女			⑥男			⑥女			⑥男						
こ	△	どちらか	こ	○	ない	反	○	ない	反	○	どちらか				
	言える 言えない	すっきり		注意する すっきり	注意する	すっきり		すっきり する	スッパリ						

図2 道徳シートの活用

「できない」に○を付けた児童の考えを最後に聞き、全員で話し合う。

5 考察

手立て①では、資料から離れ、道徳的価値の一般化のために、「正しいことを自信を持って行うことはできますか」という発問について「できる・できない」に丸を付けた後、理由を書く時間を十分に取った。その際、児童がどのような思いや考えを持っているのかを道徳シートを用いながら記入していった。記入する際には、あらかじめ分類しておいた記号とキーワードを記入しながら見取りを行った。その結果、誰がどのような思いや考えを持っているのかを把握することができ、話し合い活動の際の児童の思いや考えへのつながりに生かすことができた。

手立て②では、児童の思いや考えを「できる」「できるときもあればできないときもある」「できない」で分類して話し合い活動を行った。その際、道徳シートでの見取りを生かし、「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を取り入れ、効果的な意図的指名を行ったことで、友達の思いや考えに対して話し合ったり、児童の行為によって、誰がどのような気持ちになったのかを考えたりすることができた。児童の振り返りでは、友達の思いや考えのよさに気付いたり、自分の思いや考えを見つめ直したりする記述が見られた。さらに「正しい行動をすることで、どのような良いことがあるか」ということまで考えを深めていけると、道徳的価値に対する思いや考えをより深められると感じた。

今回の研究では、道徳シートを活用し、児童の思いや考えを見取ることで、話し合い活動の意図的指名に生かすことができた。「つなげる」「広げる」「深める」補助発問を工夫することで話し合い活動の活性化につなげることができた。このような話し合いを通して、自分の考えと友達の考えを比較することができ、様々な考えがあることよさに気づき、自分の思いや考えを見つめ直すことができた。